

## アイ(i)・チイキ(chiiki)・ツナグ(tsunagu)

## 目的

- 遠隔授業を行うことにより、中山間地域や半島の先端に位置する高等学校の生徒の多様なニーズの全てに対応した指導体制を整え、生徒の主体的な学びを支援する。
- 地域連携コンソーシアムの構築により、地域社会における課題や魅力の発見・課題解決など探究的な学びを実現する。
- 本研究を通して、中山間地域や半島の先端に位置する高等学校の魅力化を図る。

●構成校6校は、いずれも中山間地域や半島の先端に位置する高等学校で、入学の募集定員は全て80人以下という小規模の高等学校である。これらの高等学校は、域内の様々な生徒層を受け入れ、大学進学から就職までの多様な進路希望に応じた教育・支援を行うという役割が期待される。しかし、学級数や生徒数が少なくなっており、校内の教育資源にも限りがあるため、これまで行ってきた進路希望に応じた科目開設や習熟度別指導の実施など生徒の多様なニーズの全てに対応した指導体制を単独で確保することが困難となってきた。

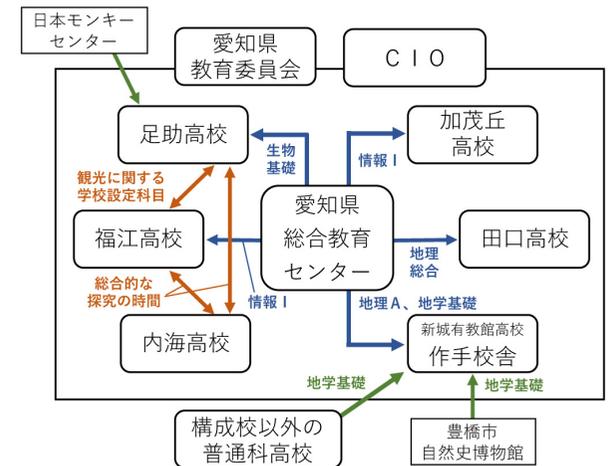
●地域連携の取組は、それぞれの高等学校で進んでいるが、教育課程外のイベント的な取組が多く、教育課程に組み込まれた教育活動とはなっていない。

●地域社会との連携・協働によって当該地域ならではの組織的・計画的な探究的な学びを実現するとともに、遠隔授業の実施や、複数の高等学校が教育課程の共通化・相互互換を図り、様々な教育資源を共用することによって、小規模高等学校単独ではなし得ない特色・魅力ある教育に取り組む必要がある。

## 1. 遠隔事業に関する取組の概要

## 三つのタイプの遠隔授業

- 総合教育センターを配信元とする遠隔授業について  
生徒のニーズに応じた選択科目の開設及び専門外の科目を担当する教科担任の負担軽減等を目的に遠隔授業を行った。
- 構成校同士を結んだ遠隔授業について  
内海高等学校、足助高等学校、福江高等学校において、観光に関する科目等の遠隔授業を行った。
- 拡張型の遠隔授業について  
構成校への遠隔授業を、特段の設備のない構成校以外の普通科高校から行った。理科の授業では、研究施設や博物館から配信を行い、専門家の指導の下、実験・実習にも取り組んだ。



## 2. 地元自治体等の関係機関と連携・協働する体制の構築に関する取組の概要

## 地域連携を通じた学びの充実と、地域を超えた大コンソーシアムの可能性

高等学校名	概要
愛知県立内海高等学校	観光に関する地域、構成校との連携
愛知県立加茂丘高等学校	地域の再開発計画に関する地域との連携
愛知県立足助高等学校	観光に関する地域、構成校との連携
愛知県立福江高等学校	福祉、観光に関する地域、構成校との連携
愛知県立新城有教館高等学校作手校舎	地域の環境（農業）に関する地域との連携
愛知県立田口高等学校	地域の環境（林業）に関する地域との連携

遠隔授業のノウハウを活用した大コンソーシアム構築の可能性

## 3. 成果と今後の課題

## ○遠隔授業

- ・配信拠点の構築に加え、配信拠点にとらわれない多様な配信について検証し、その可能性を広げることができた。学校間配信の知見をもとに自走に向けた体制を構築する。
- ・持続可能な遠隔授業の実施に向けて配信教員を安定的に確保する仕組み作りが必要である。

## ○地域連携コンソーシアム

- ・地域との協働により、実践的で探究的な学びを実現できた。
- ・中学校との連携により、系統的で個別最適な学びが充実した。
- ・特性の似た構成校のコンソーシアムをつなげることができた。
- ・コンソーシアム構築のプロセスを標準化するとともに、新たに構築する学校が、先行している学校に相談できる体制の構築を進める。